

## 日本語会話におけるプロジェクトワークの実施

(ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の3年生  
6学期の場合)

ウランダリ

20130830046

### 要旨

本研究は日本語学習者、特にジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の3年学生におけるプロジェクトワークの実施である。日本語教育の学習者調査について、インフォメーションの調べるために、インターネットを使わなければならない。そのことは、個人になるでなく、協力とコミュニケーションがない。しかしプロジェクトワークを使用することによって、学習者の会話を高められる。

本研究の目的は「実用会話の授業における」、プロジェクトワークの実施を観察する。また、「実用会話の授業における」、学習者の反応を観察する。

データの分析に、観察とアンケートとインタビューは関係がある。データの結果から、プロジェクトワークの実施で、日本語の能力を高めることができ、モチベーションと活動的を高められる。

会話の授業の間に、学習者の問題は、日本語の能力だけでなく、自身のことも大切である。アンケートの結果から、プロジェクトワークの実施した後、(84.8%)が最もよく自身がある。そして、インタビューの結果から、発表によると、学習者は日本語の能力を高められる。また、アンケートの結果から、プロジェクトワークの実施では、(87.9%)は日本語の学ぶするにあたり、モチベーションを高められる。そのことだけでなく、プロジェクトワークの実施では、ソフトスキルを立ち上げられる。たとえば、想像力とグループの協力とコミュニケーションの能力と発表の能力である。

キーワード：日本語、プロジェクトワーク、教育、モチベーション

## 1. 序論

小川 (1982:636) は「話す」ということは人と「人の間で意思を伝えあう、いわゆるコミュニケーションであり、その形には1人対1人、1人対多数、多数対1人などがある」と述べている。

現在、最新テクノロジーがあるから、携帯電話を使用するだけで、すべての情報が知られる。そのことから、生活がもっと便利になる。

日本語教育の学習者調査について、インフォメーションの調べるために、インターネットを使わなければならない。そのことは、個人になるでなく、協力とコミュニケーションがない。しかしプロジェクトワークを使用することによって、学習者の会話を高められる。

Mansoor (1997: 10) は プロジェクトワークはコラボレーションの授業である。プロジェクトワークの中で、三段階があり、情報をあつめ、情報を重ね、最後は発表する。そのことから、日本語の能力が高めるだけでなく、モチベーションと学習者の積極的も高める。

本研究では、学習者は、インタビューのテーマをグループで決める。そして、全ての情報をあつめる。情報をもらうことができるために、インタビューをされる。つまり、コミュニケーションはもっと大切なことである。コミュニケーションをされるために、学習者はそのテーマをわかる。このプロジェクトワークのインタビュー対象者は、日本人である。学習者はじめて会う目上の日本人と話せば、それは難しいである。それから、

インタビューする前に、学習者はインフォメーションを整理し、ことができる。友達と一緒に協力する。最後の段階は発表する。

本研究のサンプルは、ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の3年生6学期である。

## A. 問題の設定

- 1) ジョグジャカルタムハマディヤ大学には、実用会話の授業で、どのようなプロジェクトワークの実施するか。
- 2) 学習者の応答には、実用会話の授業で、どのようなプロジェクトワークの実施するか。

## B. 研究の目的

- 1) 「実用会話の授業」における、プロジェクトワークの実施を観察するためである。
- 2) 「実用会話の授業」における、学習者の応答を観察するためである。

先行の研究は、Indah (2015)の論文のタイトルは“Penerapan Model Pembelajaran (Project Based Learning) Untuk Meningkatkan Hasil Belajar Keterampilan Berbicara Siswa Kelas V A SDN Ajung 03”である。本研究には、研究者の論文が同じである。しかし、研究の方法と研究のインストルメンが違ふ。先行研究で、テストで使用する。一方、本研究の論文には、テストを使用しない。また、Hauroni (2015)の論文のタイトルは，“The Use of Project Based Learning in Teaching Analytical Exposition Text to Improve Students Speaking Skill”である。先行研究には、データの収集をまらうために、観察とインタビューだけで使用する。

## 2. 本論

### A. データおよび研究の方法

本研究には、研究者の研究の方法はコンビネーションで使用する。一方定量分析のデータと定性のデータはコンビネーションをされる。しかし最も大切なデータは定量分析のデータであり、定性のデータは補足のデータである。研究のインストルメンは観察とアンケートとインタビューとドキュメンテーションを使用する。データの収集は、テストを使用しない。データの方法を使うのは、観察のテクニックとアンケートのテクニックとインタビューのテクニックとドキュメンテーションのテクニックである。

本研究には、データの分析が観察とアンケートとインタビューとドキュメンテーションを使用する。観察のデータのために、周期の方法を使用する。観察のデータを使用するだけではないから、アンケートのデータが必要である。

### B. 分析の結果と考察

データの分析結果から、プロジェクトワークの実施における、日本語の能力が高めるだけでなく、モチベーションと学習者の積極的にも高める。本研究で、研究者のデータの分析についてのべたいと思う。

- 1) I周期には、意見を伝えるとき、学習者は自身がない。しかしプロジェクトワークの実施で、学習者は自身を高められる。7番のアンケートのデータには、学習者を選ぶによって、(84.8%)が、プロジェクトワークの実施を使用することによって、自身を高められる。

- 2) II 周期には、学習者は意見の文法を理解することができない。  
しかしプロジェクトワークの実施で、学習者は意見の文法を理解することができる。20 番のアンケートのデータにおける、学習者を選ぶによって、(75,7%)が、プロジェクトワークの実施を使用することによって、意見の文法を理解することができる。
- 3) I 周期には、学習者はインタビューの文法理解することができない。しかし、プロジェクトワークの実施で、学習者はインタビューの文法を理解することができる。そのことはアンケートのデータを見られる。22 番のアンケートのデータには、学習者を選ぶによって、(78,8%)が、プロジェクトワークの実施を使用することによって、インタビューの文法を理解することができる。
- 4) II 周期には、 学習者は質問を日本語で答えたいとき、まだ困惑する。プロジェクトワークの実施で、学習者は質問を日本語で使用することができる。そのことはアンケートのデータを見られる。8 番のアンケートのデータには、学習者を選ぶによって (84.9%)が、プロジェクトワークの実施を使用することによって、質問を日本語で使用することができる。
- 5) III 周期には、学習者は発表するとき、最も自身と最も創造的になることができる。そのことはアンケートのデータを見られる。二番のアンケートのデータには、学習者を選ぶによって、(66.7%)が、プロジェクトワークを使用することによって、発表するとき、最も自身になることができる。そして、14 番のアンケートのデータにおける、学習者を選ぶによって、(72.8%)が、プロジェクトワークを使用することによって、発表するとき、最も創造的になることができる。アンケートのデータの結果からだけでなく、5 番のインタビューのデータによって、発表するとき、プロジェクトワークが面白くなる。

- 6) III 周期には、プロジェクトワークを使用することによって、学習者はインタビューの流れと発表の結果流れを理解することができる。そのことはアンケートのデータを見られる。四番のアンケートのデータには、学習者を選ぶことによって、(84.8%)が、プロジェクトワークを使用することによって、インタビューの流れを理解することができる。そして、5 番のアンケートのデータにおける、学習者によって、(90.9%)が、発表の流れを理解することができる。
- 7) 七番のインタビューのデータには、日本語の能力を高めるために、学習者は発表することを選ぶ。なぜなら、発表するとき、日本語で使用しなければならない。

### 3. 結び

#### A. 結論

授業の結果からと全てのデータの分析結果から、次のようにまとめることができる。

- 1) プロジェクトワークの実施使用することによって、ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の 3 年生 6 学期の場合には、日本語の能力と活動のことにモチベーションを高める。そのことは、3 段階によってした。

##### a. 授業計画

本研究には、先生は授業の目的を教え、インタビューのテーマをグループで決め、授業を初めて前には質問をあげ、学習者のチャンスをあげるには、友達と一緒に相談し、プロジェクトワークの段階を説明し、学習者の活動を観察し、ディス

カッションの流れを説明し、インタビューの流れを説明し、発表の流れを説明する。

**b. 発表のこと**

本研究には、学習者は日本語で発表することができる。各グループには、発表の分配が同じはずである。発表するから、各グループのプロジェクトの結果を見られるためである。

**c. 評価、**

評価には、先生は学習者に評価する。評価の方法は、学習者の経験のプロジェクトワークの実施中を *refleksi* する。

2) プロジェクトワークの実施を使用する間に、学習者は最もよくなる。

- a. 学習者はモチベーションを高められる。
- b. 学習者は授業の問題のことを終わらせる。
- c. 学習者は日本語の能力を高められる。
- d. 学習者はグループの協力を高められる。
- e. 学習者は時間を守られる。

## B. 提案

### 1) 教師のため

モチベーションと創造的と日本語の能力を高められるのために、授業のバリエーションが必要である。学習者の創造的をふくられるのために、各グループは5人で構成する。

### 2) 他の研究者のため

本研究には、最も大切データは観察のデータである。これで、最もよくなったら、すべてのデータがバランスである。そして、本研究には、観察使用ことによって、日本語の能力を知られる。しかし、最もよくなったら、日本語の能力をしられるために、テストを使用すると考える。つまり、本研究を膨らすために、プロジェクトワークの効果的に使用する。

## 4. 参考文献

- [1] Archer,P, Cregan, A, McGough, A. dan Shiel, G. 2012. *Oral Language in Early Childhood and Primary Education (3-8 years)*: Dublin, NCCA. [Online]  
[http://www.ncca.ie/en/Publications/Reports/Oral\\_Language\\_in\\_Early\\_Childhood\\_and\\_Primary\\_Education\\_3-8\\_years\\_.pdf](http://www.ncca.ie/en/Publications/Reports/Oral_Language_in_Early_Childhood_and_Primary_Education_3-8_years_.pdf) [27 Oktober 2016].
- [2] Arsyad, M.G & Mukti, U. S. 1998. *Pembinaan Kemampuan Berbicara Bahasa Indonesia*. Jakarta: Erlangga.
- [3] Astami, Sri. *Model Pembelajaran Kaiwa Tingkat Dasar Sesuai dengan JF Standard*. [Online]. Tersedia: <http://journal.binus.ac.id/index.php/lingua/article/view/831> [21 Desember 2016].

- [4] Darwis, Riadi. *Terampil Berbahasa*. Bandung: Alfabeta.
- [5] Dewi, L, Sitoesmi, U. *Pelaksanaan Pembelajaran Speaking dengan Menggunakan Project Work*. [Online]. Tersedia: <http://ejurnal.unisri.ac.id/index.php/Eksplorasi/article/view/857>. [15 Januari 2017].
- [6] Effendi, S. 1985. *Bahasa Sebagai Alat Komunikasi*. Jakarta: Pusat Bahasa
- [7] Ghazali, Syukur. 2013. *Pembelajaran Keterampilan Berbahasa Dengan Pendekatan*.
- [8] Hadi, Sutrisno. 1987. *Metodologi Research*. Yogyakarta: Yayasan Penerbitan Fakultas Psikologi UGM.
- [9] Hambly, Kenneth. 1992. *Bagaimana Meningkatkan Rasa Percaya Diri*. Jakarta: Arcan.
- [10] Hasan, Iqbal. 2006. *Analisis Data Penelitian Dengan Statistik*. Jakarta: Bumi Angkasa.
- [11] Hauroni. 2015 *The Use of Project Based Learning in Teaching Analytical Exposition Text to Improve Students Speaking Skill*. Skripsi Universitas Pendidikan Indonesia: tidak diterbitkan.
- [12] Hidayat, Kosadi. 1990. *Strategi Belajar Mengajar*. Bandung.
- [13] Japan Foundation. 2016. 2015 年度海外日本語教育機関調査結果 (速報値), Tokyo: Japan Foundation.
- [13] Indah. 2015. *Penerapan Model Pembelajaran (Project Based Learning) Untuk Meningkatkan Hasil Belajar Keterampilan Berbicara Siswa Kelas VA SD N Ajung 03*. Skripsi pada Fakultas Keguruan dan Ilmu Pendidikan Universitas Jember: tidak diterbitkan.
- [14] Kementrian Pendidikan dan Kebudayaan. 2014. *Materi Pelatihan Guru Implementasi Kurikulum 2013 Tahun 2014*. Jakarta: Badan Pengembangan Sumber Daya Manusia Pendidikan dan Kebudayaan dan Penjaminan Mutu Pendidikan.
- [15] Mansoor, Inam et.all. 1997. *Project Based Learning and Assessment a Resource Manual for Teachers*. Arlington Public School.

- [16] Muslich, Masnur. 2008. *KTSP Pembelajaran Berbasis Kompetensi dan Konseptual*. Jakarta: PT Bumi Aksara.
- [17] Pernatawaty. 2014. *Pembelajaran Berbicara Melalui Pembelajaran Kooperatif*. Sripsi Universitas Pendidikan Indonesia: tidak diterbitkan.
- [17] Ruslan, Rosdy. 2003. *Metode Penelitian Publik*. Surabaya: PT Raja Grafindo Persada.
- [18] Sudaryono, Margono, Rahayu. 2013. *Pengembangan Instrumen Penelitian Pendidikan*. Yogyakarta: Graha Ilmu.
- [19] Sudjana, Nana, dkk. 1995, *Penelitian Hasil Proses Belajar Mengajar*, Bandung: Remaja Rosda Karya.
- [20] Sudjana, Nana, dkk. 2007. *Penelitian dan Penilaian Pendidikan*, Bandung: Sinar Baru Algensindo.
- [21] Sudjianto. 2010. *Metodologi Pembelajaran Keterampilan Berbahasa Jepang*. Bekasi: Kesaint Blanc.
- [22] Sugiyono. 2015. *Metode Penelitian Kombinasi (Mixed Method)*. Bandung: Alfabeta.
- [23] Tarigan, Henry Guntur. 2008. *Berbicara*: Angkasa.
- [24] Tarigan, Henry Guntur. 1983. *Berbicara Sebagai Suatu Keterampilan Berbahasa*. Bandung: Angkasa.
- [25] Trianto. 2011. *Model Pembelajaran Terpadu*. Jakarta: Bumi Aksara
- [26] Wena, Made. 2011. *Strategi Pembelajaran Inovatif Kontemporer*. Jakarta Timur: Bumi Aksara.
- [27] Wiyanto, Asul. 2000. *Diskusi*. Jakarta: PT Grasindo.